令和5年度学校だより
架け橋　特別号
甲府市立山城小学校
R5　10．12

学校教育目標
「やさしく
かしこく
たくましく」

編集・発行　学力向上委員会

全国学力・学習状況調査について

本年度の全国学力・学習状況調査は４月１８日（火）に、全国の小中学校で実施されました。本校では６年生１４８名が参加しました。

この調査の目的は，義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，

- □全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析することによって，国やすべての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析しその改善を図る
- □学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善･充実等に役立てる
- □そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

ととされています。

この調査は大きく二つに分かれています。

◇教科に関する調査（国語・算数）

- ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり，常に活用できることが望ましい知識技能等
- ・知識･技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

◇質問紙調査

- ・学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

こうした学力調査の実施は，子どもたちの学力や学習の状況を把握･分析し，教育活動の成果と課題を確認し，その改善を図ることを目的としています。今年度の調査結果を分析し，その取り組みについてまとめましたのでお知らせします。

◎本校の学力・学習調査の結果について

◇教科に関する調査（国語・算数）について

①全国の平均正答率との比較

文部科学省では，平均との差±５％を微差とし「±５％は，ほぼ同等を意味する」としています。このことを基に±５％の範囲にある場合「ほぼ同等」，＋５％以上を「上回っている」，－５％以下を「下回っている」と表します。

全国及び山梨県の教科別平均正答率は表の通りです。本校の正答率は国語，算数ともに全国・県とほぼ同等であると考えられます。

【参考】教科別平均正答率（全国・山梨）

	全国平均	県平均
国語正答率（%）	６７．２	６６
算数正答率（%）	６２．５	６１

各教科では，国語 14 問，算数 16 問の設問がありました。教科全体の正答率は全国とほぼ同等ではありますが，設問によっては全国・県を上回る設問も，下回る設問もありました。その下回った設問の学習内容を「課題となる学習内容」としてとらえ考察を進めました。

②傾向

【国語】

正答率を全国･県と比較すると前述のように，全国・県の平均正答率とほぼ同じとなっています。「目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約することができる」「必要なことを質問しながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえることができる」に関しては全国・県を上回った正答率になっています。

しかし，「学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる」という学習内容の「意外」と答える問題では全国を下回る結果となりました。また，「図表やグラフなどを用いて，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」や「目的や意図に応じ，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめることができる」に関しては苦手意識をもっているようです。

【算数】

正答率を全国･県と比較すると前述のように，全国・県の平均正答率とほぼ同じとなっています。「一の位が０の二つの 2 位数について，情報の計算をすることができる」に関しては，全国･県を上回った正答率になっています。

しかし，「正三角形の意味や性質について理解している」「高さが等しい三角形について底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」「（２位数）÷（１位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考

えることができる」「百分率で表された割合について理解している」に関しては全国・県を下回った正答率になっています。また，「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる」「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる」「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる」「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる」に関しては苦手意識をもっているようです。

【国語・算数の結果から】

前述した課題となる学習内容から考察すると，本校の子どもたちは「記述」問題や「図や表，グラフ等を基に考えられることを自分のことばで表す」問題について苦手意識をもっていることが推測されます。

③対策

今回の結果を踏まえ，校内研究において全職員で検討し今後の対策として，次のようにまとめました。

【国語】

- 問題文で何を問われているのかを捉え違えている児童が見受けられることから，音読(正しく読む)に繰り返し取り組む
- 授業の中で学習感想を書く機会を増やし，自分が分かったことや思ったこと，疑問点などを整理する学習に取り組む
- 読み手を意識した文章の構築をする学習，また文法の定着を図る学習に取り組む
- 複数ページにわたる長い資料を読み解く学習に取り組む

【算数】

- 問題の意図が捉えられていない児童が見受けられることから，国語等を通して読解力をつける学習に取り組む
- 学習感想を書く機会を増やし，自分の考えや疑問，分かったこと等を整理する学習に取り組む
- 定義や算数の言葉を定着する学習に取り組む
- 問題を解いた後に，条件を満たしているか見直す習慣づくりに取り組む
- 式→文字→説明を横断しながら問題の解き方を説明する学習が必要
- 前の学年の既習内容を定期的に振り返る学習に取り組む

【国語・算数を通して】

問われている問題の意図や条件に合わせて適切に解答する学習の必要性を感じました。会話での受け答えについても，単語で答えることが多くなっているのではないかと感じます。普段の生活からも改善できる点を意識し取り組んでいきたいと思います。

今回出題された中から，全国的に平均正答率が低く，本校の６年生としても課題として考えられる問題を掲載します。

国語　１二，１三

1　川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、【川村さんの考え】と川村さんが選んだ【カード①】から【カード⑤】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【カード①】
6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいきょうするのではないかと心配だ。

【カード②】
6月30日
・雑草取りをしているが，農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
・調査方法　週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査きかん　7月1日～15日

【カード③】
7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】
7月20日
[農家の石山さんのお話]
・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】
7月21日
[学校でできる解決方法]
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

【川村さんの考え】
雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。

二　川村さんは、選んだカードをもとに、次の【川村さんの文章】の□に学校の米作りの問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、□に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【川村さんの文章】

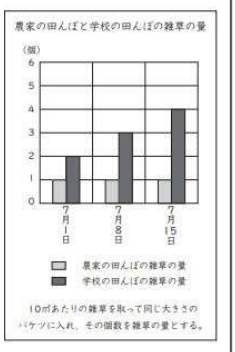
学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下じゅんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア いがい に雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイ くらべて みました。ウ きかん は7月1日から15日までです。

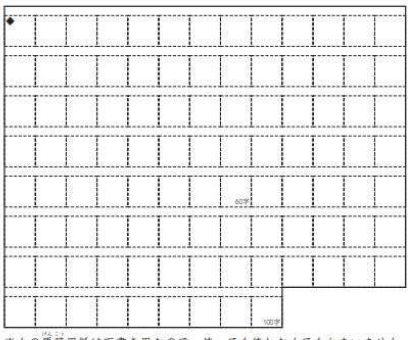
右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

□



このようなことに取り組み、9月の下じゅんにお米をしゅうかくすることができました。

〈条件〉
○ 学校の米作りの問題点については、【川村さんの文章】のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と【カード④】のそれぞれから分かることを書くこと。
○ 問題点の解決方法については、【カード⑤】をもとにして六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。



※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。
解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

雑草取りを続けたのですが、アいがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。

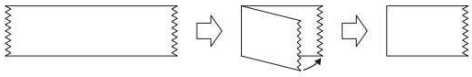
提示されている条件にすべて合うように回答するのが難しかったと考えます。また，漢字では「意外」を「以外」と回答した児童が多かったです。

算数　２（３），２（４）

(3)　えいたさんたちは、下のようなつくり方で三角形をつくります。

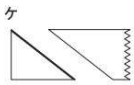
【えいたさんのつくり方】

① 下の図のように、テープを折って、下の直線が重なるようにします。

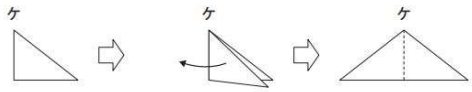


② 右の図のように、折り目のはしを点ケとします。

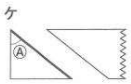
③ 折って重ねたまま、点ケを通るななめの直線で切ります。



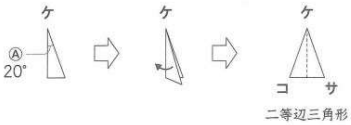
④ 開くと三角形ができました。



ゆいなさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の③の図で、下のⒶの角の大きさをそれぞれちがう大きさにしました。



ゆいな：私は、Ⓐの角の大きさを 20°にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。

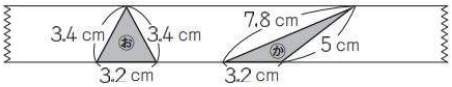


二等辺三角形

わたる：私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、Ⓐの角の大きさをゆいなさんとちがう大きさにして切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、Ⓐの角の大きさを何度にすればよいですか。
答えを書きましょう。

(4)　えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のようなおとかの２つの三角形をつくります。



上のおとかの三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の **1** から **4** までの中から１つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1　おの面積のほうが大きい。
2　かの面積のほうが大きい。
3　おとかの面積は等しい。
4　おとかの面積は、このままでは比べることができない。

算数では正三角形のひとつの角の大きさまたそれを二等分したときの大きさを示された図とはちがって想像して回答することが難しかったと考えます。
　また，テープの幅が三角形の高さとなり，底辺と高さが等しいことに結びつけて回答することが難しかったと思われます。
※国立教育政策研究所のＨＰに全問題，正答例が掲載されています。ご参照ください。

◇質問紙調査について

〇全体的な特徴

　この「質問紙調査」は，「基本的生活習慣」「挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感」「学習習慣・学習環境」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業完全に関する取り組み状況」「学習に関する興味・関心や授業の理解度」などの状況を把握する内容となっています。山城小学校の子どもたちは，多くの項目で「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」などの肯定的な回答をしていました。以下に特徴的な点を示します。

〇「基本的生活習慣」

　「朝食の摂取」「決まった時間の起床」の項目では，肯定的な回答が８０％以上となりました。朝ご飯を食べる，起きる時刻など基本的な生活習慣が身についているようです。しかし，「就寝時刻」に関しては他の項目に比べて肯定的な回答が少なくなっています。ご家庭に協力いただく中で，改善していく必要があると思います。

〇「挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感」

　この設問では「自分の良いところを認めてくれている」「将来の夢や希望を持っている」など自己有用感を持っている子どもたちが多いことがうかがえます。また，「いじめはどんな理由があってもしてはいけないこと」「人の役に立つ人間になりたい」の項目については９０％を超える子どもたちが肯定的な回答をしていました。「学校に行くのが楽しい」「友達と関係に満足していますか」「普段の生活の中で，幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」に関しても，肯定的な回答が多くありました。その反面，「困りごとや不安がある

ときに，先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の項目で肯定的な回答が若干低めでした。

○「主体的･対話的で深い学び」

子どもたちの学習に対する取り組みで,「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の項目ではの肯定的な回答が低く,「５年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか」「５年生までに受けた授業では，各教科などで学んだことを生かしながら，自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の項目や,「学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを他の学習で生かしていますか」の項目では他の項目よりも肯定的な回答が少なくなっています。

○「学習に対する興味・関心や授業の理解度」

国語や算数の学習は「大切だ」に対して，肯定的な回答をしている児童の割合は高く９０％に迫っています。同時に国語や算数の学習が「将来，社会に出たときに役に立つ」に対しても肯定的に捉えている子どもたちが多いです。しかし,「国語や算数の学習を好き」の項目に対しての肯定的な回答はあまり多くはありませんでした。今後の大切な改善点と捉えています。また，英語に関しても同様に,「大切さ」については肯定的な回答が多かったのですが,「好き」「将来，積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」という項目については肯定的な回答が低くなっていました。

◎令和５年度の学力向上の取り組み

ここ数年のコロナ禍による授業への影響は小さくはありません。授業時間の削減や授業の欠席者数の増加，欠席者に伴う授業進度の調整，欠席者への補充，授業を行う際の感染症対策等，多くの制限の中でそれまでとは違う問題に教師が時間を割かれてきたことも事実ではあります。

また，今回の調査では「今住んでいる地域の行事に参加していますか」や「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という設問もありました。どちらの結果も全国・県・本校ともに肯定的な回答は少なめで，人と接する機会があまりない期間を過ごしてきた弊害のようにも思います。今後の社会状況を見通す上で，感染対策ととも社会に目を向けていくことを意識させていくことも重要だと感じます。

（１）教師の授業力の育成

今回の調査では，国語・算数の全体に対する山城小児童の結果は全国・県と比べて大きな差異は見られませんでした。授業での理解度は全国・県と同等と考えられます。しかし，先に挙げた個々の設問に対する課題や，児童質問紙での「国語・算数・英語の勉強が好き」の項目に得手不得手はあってもその大切さを認識している子どもたちが楽しく勉強に向かえる姿勢を，さらに養っていく必要があると思います。解る，解けるといった達成感や充実感を味わえる授業をさらに目指していきたいと思います。そして「課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組む」「各教科で学んだことを生かしながら，自分の考えをまとめる」「今，自分が努力すべきことを決めて取り組む」といったことにより前向きに取り組んでいけるよう授業計画を進めていきたいと思います。

（２）一人一台端末の活用

今回の調査では「ICT 機器の使用頻度」を問う内容の項目がありました。授業中はもちろん授業以外(家庭での利用も含む)での勉強のための利用を聞いたものでした。授業での効果的な活用はもちろん，家庭学習における効果的な活用方法も，今後充実させていきたいと考えます。外国語・外国語活動でも音声を聞いたり，話したりという活動にも一人一台端末の活用を考えていきたいと思います。

（３）安心して学ぶことができる学級

前述しましたが,児童質問紙の調査項目の中に「いじめはどんな理由があってもいけないこと」の設問に多くの児童が肯定的に回答していました。安心して生活するために一人一人が意識し、そのために何をすべきか考え，実践していって欲しい内容です。また多くの児童が「友達関係」「幸せな気持ち」「学校が楽しい」などの項目に肯定的な回答をしています。これまでの培ってきた学校生活の基礎がそうさせていると思います。年齢が上がり，様々なことが複雑になっていく中で，自分の考えをしっかりと持ち，自分の考えがうまく伝わるよう，話の組み立てを工夫して，発信していけるようにしていきたいと思います。そのためにも特別な教科道徳の授業を中心に互いの考えを認め合い，違う意見についても一緒に考えていけるような学級づくりを目指していきたいと思います。

以上が，全国学力・学習状況調査の結果の概要と，それを踏まえた山城小学校の取り組みです。このような学力調査で得られる「学力」はあくまで「学力」の一部です。何を理解しているか・何ができるか（知識・技能），理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力），どのように社会・世界と関わり，よりよい人生をおくるか（学びに向かう力・人間性）の３つの柱をバランス良く育成し，知・徳・体の調和のとれた『生きる力』を育成することを大切にしていきたいと考えています。また，保護者・地域の皆様には，学力調査の点数だけでなく，子どもたちの意識・生活状況等を含めた「学校全体の状況（良い点や課題点)」も診ていただき，引き続きご理解とご協力をお願いいたします。